

「長崎っ子の心を見つめる教育週間」

長崎県立長崎北陽台高等学校を訪問しました

「長崎っ子の心を見つめる教育週間」は、心豊かな長崎っ子の育成を目指して、県民挙げて「地域の子どもを地域で育てる」取組です。県内全ての公立学校では、5月から7月までの間の1週間を本教育週間と設定し、教育活動公開を通して教職員、保護者、地域の方々が、ともに子どもの心を見つめる場としています。

6月10日（月）には県教育委員、及び関係者が県立長崎北陽台高等学校を訪問しました。「SNSノート・ながさき」を活用した「情報」の授業参観を中心として、情報モラル教育や生徒を取り巻くネット環境等について協議しました。

「SNSノート・ながさき」とは？

「SNSノート・ながさき」は、平成31年2月に、長崎県教育委員会がLINE株式会社と共同で開発した情報モラル教育教材です。「SNSノート・ながさき」を活用した授業を実践することにより、インターネットやSNSの適正な利用に向けた児童生徒の健全育成を図ります。小中高校と教職員、保護者向けの全7種があり、無償でダウンロードできます。

ダウンロードはこちらから

情報モラル教育教材「SNSノート・ながさき」

https://www.edu-c.news.ed.jp/?page_id=292



公開授業の様子（2年理数科）

「情報の科学」の授業が公開されました。「SNSノート・ながさき5」を使用し、コミュニケーションにおける危険を予想することの重要性に気づき、自分と他者との危険の予想の違いに気付いたり、危険を回避しながら、自分の考えや気持ちを相手に伝える方法を考えたりする学習に取り組みました。



カードを使い、架空のSNS上のトーク画面を見比べて、「どちらがトラブルになるリスクが高いか？」と考えます。生徒は真剣そのものです。



個人で考えた後は、グループで協議します。他者はどのように感じるか、どんなことに気を付けたら良いのか、熱心に話し合う姿が見られました。

教育長も生徒が話し合う様子に興味津々です。



授業後の教育委員からの所感等

- 学習に臨む生徒の姿が、爽やかであった。とても好印象をもった。
- 現在の高校生は、宿題に分からないところがあると、スマートフォンを使って学習することが流行っていると聞く。上手に使っていくことが大事であろう。
- SNS等の利用にあたっては、言葉に気を使わなければならない。一言一句に注意しないと、ストレスになる。非常に難しい。
- このような授業を通して、自分が考えたことをまとめていく力が身につくと思う。高校生のような若い世代に向けて、こういった授業を実践してくれていることに感謝したい。
- 授業の質がよかった。
- 授業で求められている答えもあったのだろうが、生徒はその実態(ケース)に応じた言葉を考えていた。実は、大人もマナーやルールをよく分かっていない。保護者に対しての情報教育をどう啓発していくかは課題である。



生徒全員が、熱心に授業に臨み、考えを巡らせたり、グループで協議したりする様子を目にし、相手意識をもち、情報社会の問題に対処していこうとする姿に感服いたしました。高校生の携帯・スマートフォンの保持率が今や9割を超える中、「児童・生徒の安全を守る」という観点においては、学校が果たす役割には大きいものがあります。情報教育のみならず、学校におけるすべての活動を通して、生徒の社会性を育み、温かみと活気のある教育活動が展開されますことを期待いたします。

令和元年6月10日
長崎県教育委員会教育長 池松 誠二